

# 「かかりつけ医(ホームドクター)」

を持ち、まずは診療所・クリニックで診察を

## ◎「かかりつけ医(ホームドクター)」とは？

1. 日常生活の病気の予防や治療
2. 大病後の経過観察や継続的治療
3. 健康管理について指導・助言や生活習慣病などの診察  
など、日常的な診療だけでなく、健康管理、相談、体調不良や病気にかかった時に受診できる身近なお医者さんのことです。



## ◎メリットは？

- 家族の病状、病歴、健康状態を把握しているので、病気になったとき、すぐに適切な対応をしてくれます。
- 入院や高度な医療が必要なときは「紹介状」により、適切な病院を紹介してもらえます。
- 自宅や勤務先に近いなど、通院が便利です。

昭和大学横浜市北部病院は地域の中核病院として次のような役割を担っています。

「専門的な検査や治療」・「入院や手術の実施」・「救急患者の受け入れ」



当院での手術や専門的治療が終了し、症状が安定した場合には、紹介いただいた「かかりつけ医」にお戻しいたします。

## 紹介状が果たす大切な役割

昭和大学横浜市北部病院を受診される際は、かかりつけ医からの「紹介状」をお持ち下さい。初診時にかかる「選定療養費(5,250円)」のご負担がなくなります。

紹介状には患者様の病状や検査の結果などの大切な情報が記録されていますので、双方の担当医師が正確な情報を共有することができます。

## 昭和大学横浜市北部病院

### 編集後記

暦のうえではもう秋ですが、まだまだ暑い日が続いております。この病院だよりが発刊される頃には残暑が和らいでいるのでしょうか。当院では節電対策の一貫として、冷房温度の設定変更などに取り組んでおりますが、このたび職員がポロシャツで業務に当たることができるよう『スーパークールビス』を実施することになりました。少しでも患者様に爽やかに対応できればと思っております。

管理課 倉地 美雪

北部病院だより 第67号  
平成23年9月1日発行  
発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)  
編集責任者 衣笠 えり子(広報委員会 委員長)  
発行 昭和大学横浜市北部病院  
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1  
電話 045-949-7000(代表)  
URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>  
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

第67号【2011/9/1 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

### ●巻頭言

『認知症をなるべく早く見つけるために「都筑区認知症パス」のご紹介』

内科 准教授 福井 俊哉

### ●患者様へのお知らせ

待合用ベンチの設置

秋季公開講座の開催

### ●医師の配属・異動・退職

### ●診療統計

### ●外来担当表

### ●地域医療連携室からのお知らせ



大さん橋から見た横浜赤レンガ倉庫と富士山

## 巻頭言

『認知症をなるべく早く見つけるために「都筑区認知症パス」のご紹介』



内科 准教授 福井 俊哉

私は昭和大学横浜市北部病院の内科にて、神経内科を専門としております福井俊哉と申します。神経内科とは、手術的治療が該当しない脳、脊髄、末梢神経、筋に生じる疾患の診断・治療に当たる科です。代表的な疾患として、頭痛、めまい、てんかん、脳血管障害(脳卒中)、パーキンソン病などが挙げられます。これらの疾患に並んで当科が力を入れている領域が認知症の早期診断・早期治療です。

認知症は以前、痴呆と呼ばれていましたが、患者さんの人権を尊重するために改名されました。認知症は加齢とともに増加する疾患ですが、逆に年齢を重ねても全員が認知症を患うのではありません。認知症はれっきとした「病気」です。決して「年のせい」ではありません。最近では65歳以下で発症する「若年性認知症」がその社会的影響力の大きさから注意を集めています。認知症が病気である以上、早期発見と早期治療開始が必要なのです。

そもそも、認知症の「認知」とは何でしょうか？医学や心理学でいう認知とは、「生物が対象について知識を得るために、外界の情報を積極的に収集し、その情報を知覚して、推理・判断・処理を加えて記憶する過程」と定義されます。一見大変難しく聞こえますが、我々が日常茶飯事に行っていることを思い出していただくとうわりやすいと思われそうです。

たとえ話ですが、注文しておいた家電製品が自宅に届けられたとします。まず、興味や好奇心をもってその梱包を解くと思えます。最初は使い方がわかりませんので、いろいろな角度から眺めたり触ったりすることにより使い方を考えます。さらに、わからない部分は説明書を読んで情報量を増やすことにより製品の目的や使い方が次第に分かるようになります。一旦、理解してそれを覚えておくと、2回目からは楽に使えるようになります。この一連の過程を「認知」と言います。

ご理解いただけたように、認知症は決して「物忘れ」のみを意味するものではありません。注意、興味、自発性、想像力、抽象化能力、言語機能、そして記憶などの認知領域における障害などがさまざまな割合で混在している状態が認知症です。誰でも多少は忘れることもあり、中々良い考えが浮かばないこともありますが、これだけでは認知症とは呼びません。認知機能の低下により業務や日常生活の場において支障が生じるようになって初めて認知症と診断されます。認知症はちょうど火事が家全体に広がってしまった段階です。もっと早期の「ぼや」の段階で気が付いて消火すれば、大火事を防げる可能性があります。

そのためには何ができるのでしょうか？そこで、都筑区医師会の先生方と相談して、早期の認知症障害の発見のために次のような方法を見出しました。かかりつけの先生が、患者さんとの会話の中で、またはご家族からのお話から、ご本人の認知機能や精神・感情状態に異常を感じた場合、「都筑区認知症パス」を介してなるべく早期に当院の内科または精神科へ紹介して頂くことにしました。一方、かかりつけ医をお持ちでないが認知症が気になる方は、近くの先生の門をたたいてみてください。「都筑区認知症パス」を介して当院を紹介していただければと思います。開業の先生方は、すでにお手元にある「早期認知症でみられる症状の観察リスト」を活用して、早期の認知障害に気が付けてくれるでしょう。この認知症パス用に当科では専門の外来枠を設けてありますので、ご紹介をいただいてから1か月以内にはご予約をお取りできるように工夫しております。

このシステムは、認知症の早期発見を目的としたものです。北部病院の「都筑認知症パス」を受診するように勧められた場合でも、認知症と烙印を押されてしまったと考えずに、「脳の認知力の健康診断を受ける」程度の軽い考えで受診して頂きたいと思えます。すでに30人以上の方がこの「都筑区認知症パス」を介して受診されています。

受診当日は神経内科・認知症専門医の診察、言語療法士による認知・精神機能検査、および一般検査(採血など)を受けていただきます。脳MRI(脳の形を診断)、脳血流量検査(脳機能の活性度を診断)などの精密検査は当日予約して後日施行いたします。第2回目の予約診察の場においてこれらの結果をすべてご説明します。認知症の有無やその原因疾患については、診察・検査結果の内容に基づいて総合的に診断いたします。認知症であると判断された場合は、その原因疾患に対して最も適切な薬物治療を開始します。治療を行う場合は、当院、かかりつけの先生のどちらでも選択できます。

「都筑区に住んでいれば認知症の早期発見と治療開始は大丈夫」と言えるような体制を皆の力で熟成していきましょう。

